

資 料 編

1. 伊丹市総合計画（第4次）策定の主な経過
2. まちづくり提言作文最優秀作品
3. 伊丹市総合計画審議会開催経過
4. 諮問書
5. 答申書
6. 伊丹市総合計画審議会委員名簿

1. 伊丹市総合計画（第4次）策定の主な経過

- 平成10年 4月 伊丹市総合計画策定委員会(内部組織)設置
- 7月 児童・生徒・女性等まちづくり提言作文募集
- 8月 市民意識調査発送 無作為抽出2,528人
- 9月 市の政策ビジョンに関するアンケート(有識者217人対象)の発送
市民意識調査回収 1,717人(回収率67.9%)
児童・生徒・女性等まちづくり提言作文締切
小学生252件、中学生38件、高校生16件、女性12件の応募
有識者アンケート回収 97人(回収率44.7%)
- 10月 ハガキ・ファックス・インターネットによる市民提言募集
新聞各紙に7万部折込他
- 11月 総合計画を考える市民フォーラム開催 約130人参加
- 12月 市民意識調査の結果を公表
- 平成11年 2月 ハガキ・ファックス・インターネットによる市民提言の結果を公表
598人から延882件の意見・提言
- 3月 伊丹市総合計画審議会委員を市民公募
- 4月 総合計画審議会委員公募締切28人が応募
- 5月 総合計画審議会委員公募審査の結果5人を選考
- 6月 総合計画審議会設置 諮問(6月13日)
毎回の審議内容を広報伊丹で公表



- 8月 総合計画審議会から答申(8月17日)
- 9月 第6回定例市議会に基本構想を提案(議決9月27日)

2. まちづくり提言作文最優秀作品 (注)学校、学年は実施時の平成10年度のものです。

【小学生の部】

伊丹小学校6年4組 山本 智也 さん (桜ヶ丘)

ぼくは、車がソーラーカーではいきガスが全く出ない自然にやさしい車であったり、歩道にフンがなかったり路上駐車がしてなくて騒音が少なかったり緑がいっぱいの町にしたい。あと、子供やお年寄りや体の不自由な人を真剣に考える町を作ろうと思う。学校では、いじめはなく、人の事を一番に考え共に助け合い、トイレもきれいで、運動場の4分の1は緑で二酸化炭素もダイオキシンのことも考えることもなくスポーツマンやスポーツウーマンが多く楽しくすごせる学校。しかも、交通については渋滞も少なく交通事故も少なくて人々が安心して道を通ることができる。そして人のいい人ばかりがいるとてもいい町を作りたい。

【中学生の部】

「伊丹の未来」

北中学校2年5組 山中 通恵 さん (西台)

地下利用することによって自然と共存出来る町を作りたい。

私は淡路島に旅行した時、お寺に着いて見渡す限りはすの池(自然のままに見えた)で建物が無いのに驚きました。寺(本堂)も仏像も全て池の下にありました。同じように市内の大きな昆陽池を有効利用し池の下に地下施設を作り、そこに色々な公共施設を集合させて町の活性化を計ってはどうか。例えば、池そのものは渡り鳥が飛来する今のままの自然の姿でのこし近くには一年中ちょうが舞うことで有名になった昆虫館があるので地下に淡水魚の水族館や夜行性の動物・ハ虫類の飼育などの施設をもってきてはどうか。

また、あちこちある施設は幼児や小学生位までの利用しか出来ない物が多く、一般の方のセンター施設の利用はあっても、中学生・高校生向きの施設が少ないので運動室(スポーツトレーニングやエアロ)、文化室(コンピューター・ワープロなど。)また、シルバ

一の方との交流室などを設けて地域とのふれあいなどを作る。また、新しく建てる地上の公共物は全て地下に大型蓄電室を作り、屋上と側面はソーラーパネルをはり、地域の施設の電力に利用する。猪名川の利用として落差の水力発電ではなく川の流れによる発電施設を作り利用する。川の浅瀬ではめだかや川エビ、ザリガニがとれ夏にはホテルがとぶ遊歩道を作り、一年中花を咲かせてみんなの散歩用の道を作って遊べるようにする。

海山がない伊丹の町に何か他とちがった特別の物を作ってもっと活気あふれる町作りをしてみたい。



【高校生の部】

「中心市街地活性化に対する提案」

白陵高等学校3年 八尾 晋典 さん（中央）

都市はどれだけ人を集めるかという競争の時代に入ると言われている。そこで中心市街地の活性化を「どれだけ人を集められるか」「どれだけ交流が生まれるか」という点から考えてみたい。大阪、神戸などの大都市は昔から集客都市として発展している。伊丹はこじんまりとした中堅都市であるので大都市と張り合っても勝ち目がない。それより、ある程度まちづくりのテーマを絞って大都市にない独自性を出すのにこだわった方がよい。その一つは、旧伊丹郷町の歴史性を強調することだ。伊丹は周辺都市に比べて、街としての歴史がある。江戸時代、津の国の隠れ里といわれた伊丹郷町の持っていた雰囲気を取り戻すことが必要だ。町並みを江戸の町屋風に統一をしたり、今も残る酒蔵を集客装置として利用する。また、この歴史性を押し出すのと同時に中心市街地に集積する文化施設を活用する。例えば、工芸センター〈蔵富都〉は国際公募展などを開催しているとはいえ、まちにとけ込んではいない。中心市街地内の空き店舗にクラフト品のサテライトショップを散りばめ、回遊性を持たせればまさに蔵富都である。これに、アーティスト

やデザイナーを招いて国内外のクラフトの情報を発信すれば、国内外に伊丹の独自性をアピールでき、蔵富都が集客性を生むことは間違いないだろう。

こうして、新と旧が入り混じる魅力的なまちが誕生するのではないか。活性化に向けて新たに知恵を絞るより今あるものを生かす方が本当の活性化である。

次に、中心市街地からの若者離れを抑制しなければいけない。まちに若者がいないと活気がわかない。今の中心市街地は若者にとって魅力的ではない。また、伊丹には短大が2校あるものの中心市街地からはなれ、大学、専門学校というような若者が集まるような仕掛けがない。そこで若者に伊丹に住んでもらえるようにすればどうであろうか。中心市街地のリニューアルを機に店舗＋学生アパートのような建物を誘導し、学生の住む町にすればよい。宮ノ前あたりが適地かと思う。JRと阪急に接続しているので立地としてはいいだろう。学生が住むとまちに若々しさが生まれるだろう。

このように中心市街地活性化に向けて提案をさせていただいた。しかし、活性化と急ぎすぎるのはどうか。まちは急にがらっと姿を変えるよりちらちらと姿を変えていくほうが面白いし、愛着がわくし、風格が出てくる。伊丹は大都市と違って時代の要請にすべてこたえるだけの器は持っていない。それよりもそこに住む人、そこを訪れる人の交流を通して、地に根を張って、独自の文化、人を育てていけばよい。

【女性の部】

「子どもが夢中で遊べる拠点を！」

波多江 みゆき さん（池尻）

この市に住んでのべ7年になりますが、質の高い講座やイベントが多く生まれ、土地が狭い分まとまりのある伊丹を「けっこういい町だ」と思っています。

女性政策については「女性のための行動計画」が策定され、この数年の事業展開には目をみはるものがあります。

文化あふれ住みよくなってきた伊丹市ですが、しかしまだ足りないものの一つが、「女性と子どもの社会性」だと思います。

私は伊丹の母親に向け、ミニコミ誌「チャチャねっと」(年3回、5千部、無料)を発行していますが、そこで出てくるのは子どもや夫を優先順位の上位に上げ、自分は「責任」や「決断」から逃げている社会性が欠落した女性たちの姿です。それは決して彼女たちの責任ではなく、そのことが「美学」だとすりこんできた社会のせいです。しかし、そろそろ女性が無責任さから脱出しないと、子どもたちも同様に育つということに、昨今の少年少女事件後、社会はようやく気づき始めました。女性はもっと、責任を持った仕事や活動で社会性を持つべきなのです。

けれど、保育所や学童保育の定員数や内容が、女性の仕事や活動を阻んでいる現実があります。特に児童クラブ(学童保育)は、小学校低学年の間しかありません。そのうえ、クラブ以外の友達と遊べないため、参加するのをいやがる子どももいると聞きます。4年生になればひとりで留守番はできるでしょうが、精神的な不安を思えば母親はなかなか家を空けられせん。また、クラブを辞めたいと言う子どもの気持ちを優先してしまい、社会活動から遠のいてしまうのです。

私は4年前、東京都新宿区に住んでいましたが、そこでは小学校区に1つずつ公園付きの広い児童館があり、指導員さんが常駐していました。午前中は就園前の幼児が遊び、午後からは小学生が多数集まり、活発に遊んでいたのが印象的でした。学童保育の子どもも、そうでない子どもと一緒に遊べるスペースが子どもたちの拠点だったのです。

伊丹には3つの児童館しかなく、近所の人だけがいい思いをしているにすぎません。小学校区にひとつずつ、児童館を置くのが理想ですが、急に無理なら学校の中にその機能を設ければいいと思います。子どもが集まりたくなるスペースに、温かく見守る指導員がいて、小学校1年から6年まで縦割りで遊べることにより子ども自身、もめごとやいたわりの中で広く社会性を身につけられます。また、母親も罪悪感なく仕事や活動に打ち込め、責任ある社会性を身につけ、子どものお手本となる生き方ができるに違いありません。

伊丹市がさらに住みよく活気づいた町になるために、以上のことを提言させていただきます。どうぞ、迅速な対応をお願い申し上げます。

3. 伊丹市総合計画審議会開催経過

平成11年	6月13日	第1回全体会	委嘱、正副会長選出、諮問
	6月24日	第2部会第1回	基本目標2について
	6月29日	第1部会第1回	基本目標1について
	7月 7日	第2部会第2回	基本目標4について
	7月13日	第1部会第2回	基本目標3について
	7月22日	第2回全体会	基本目標5について及び各部会の報告
	8月 6日	第3回全体会	答申書のまとめについて
	8月17日	会長から市長に答申	



4. 諮問書

伊企企第454号
平成11年6月13日

伊丹市総合計画審議会
会長 山本泰督様

伊丹市長 松下 勉

伊丹市第4次総合計画基本構想の策定について(諮問)

伊丹市第4次総合計画基本構想を策定するにあたり、別添の基本構想原案について、貴審議会の意見を求めます。

5. 答申書

平成11年8月17日

伊丹市長 松下 勉 様

伊丹市総合計画審議会
会長 山本 泰 督

伊丹市第4次総合計画基本構想について(答申)

平成11年6月13日付、伊企企第454号により諮問を受けた伊丹市第4次総合計画基本構想について審議を重ねた結果、次のとおり結論を得たのでここに答申します。

記

I. はじめに

諮問を受けた基本構想原案については、伊丹市がこれまで着実に積み重ねてきた各種の取り組みを土台としたうえで21世紀の潮流をふまえており概ね適切であると思われるが、特に以下の項目について意見の集約を見たので、別掲のとおり基本構想原案を修正することが適当であると考えます。

なお、審議の際に補足資料として提出された基本計画原案についても、審議会が基本構想原案に修正を加えた趣旨を生かして修正されたい。

また、審議会で交わされたさまざまな意見については資料編に添付しているので、基本計画や他の下位計画において、さらには諸事業の実施にあたり、実施可能なものから速やかに実施するなど、十分に取り入れられたい。

II. 意見

1. 基本的視点について

- (1)課題の掘り起こしから市民合意までのプロセスをつくる必要がある。
- (2)多様な主体間の調整機能だけでなく、市民活動を積極的に支援していくことが必要である。
- (3)異なる立場の市民同士の自己調整(合意形成)機能づくりを支援する必要がある。
- (4)パートナーシップの確立には、互いの違いと、人間としての平等性の両方を認め合う精神が必要である。
- (5)政策の総合性を実現するためには具体的な方策を講じる必要がある。

2. 都市の将来像について

読み手にイメージがわかりやすいよう、簡潔な解説文をつけることが望ましい。

3. 施策の大綱について

(1)基本目標 1

- ・ 地域福祉システムの構築とならび、特に今後は高齢者を福祉の対象者としてのみでとらえることなく、多様な蓄積や生き方を背景にした高齢者の力を活用する地域への参画について、積極的な施策を打ち出す必要がある。
- ・ 都市整備については、さらに福祉の観点を強化して進めなければならない。

(2)基本目標 2

- ・ 環境共生型のまちづくりには、都市計画や交通体系からの施策も必要である。
- ・ 資源循環型のまちづくりには、事業者も含め、地域での立場を越えた対話と協働関係づくりが不可欠であり、その関係の中で合意しあいながら進めることが効果的である。そのための仕組みづくりを進めなければならない。

(3)基本目標 3

- ・ 振興を目指すべき新しい都市型産業のイメージをより具体的に表現する必要がある。

(4)基本目標 4

- ・ 子ども・青少年の健全な成長には地域の力が重要であり、特に高齢者の力を活用した多様な世代間交流が、生涯学習による地域の人材づくりとあいまって、さらに推進されるべきである。
- ・ 21世紀を担う次世代をたくましく育てる学校教育については、「生きる力」の中でもとりわけ「自分で考える力」を育てることが必要である。
- ・ 多文化共生社会の実現に向け、在日外国人教育・多文化教育を進める必要がある。

(5)基本目標 5

- ・ 基本的視点の箇所においても指摘したように、市民参画については具体的な仕組みづくりを行う必要がある。
- ・ 総合計画の実施状況について、市民満足度を測る政策アセスメント(評価)を実施し、基本構想の理念に基づいて施策の優先順位を見直すべきである。

6. 伊丹市総合計画審議会委員名簿

- ・敬称略
- ・選出区分ごとの50音順

区 分	氏 名	所 属 ・ 役 職 名	所属 部会
学 識 経 験 者	浅 野 仁	関西学院大学社会学部教授	1
	☆ 久 隆 浩	近畿大学理工学部助教授	2
	朴 木 佳 緒 留	神戸大学発達科学部教授	2
	☆ 安 田 孝	摂南大学工学部教授	1
	◎ 山 本 泰 督	神戸大学名誉教授	1
市 議 会 議 員	上 原 秀 樹	伊丹市議会議員	2
	倉 橋 昭 一	伊丹市議会議員	2
	藤 田 静 夫	伊丹市議会議員	1
	松 永 秀 弘	伊丹市議会議員	1
	村 井 秀 實	伊丹市議会議員	2
市 民 代 表	青 木 寿 子	伊丹市消費者団体連絡協議会理事	2
	荒 木 澄 子	伊丹市体育協会副理事長	2
	岩 永 清 滋	公募・会計事務所自営	1
	上 田 司 朗	公募・地方公務員	2
	有 働 治 行	伊丹労働者福祉協議会会長	1
	大 倉 香 代 子	伊丹市女性団体懇話会代表幹事	2
	倉 員 枝 里	公募・主婦	2
	小 西 新 右 衛 門	伊丹商工会議所会頭	1
	齊 藤 真 治	伊丹青年会議所理事長	1
	佐々木 皓 一	伊丹市医師会会長	1
	★ 正 賀 ス ミ	伊丹市社会福祉協議会会長	1
	白 神 利 恵	公募・自営業手伝い・大学院生	2
	進 藤 敏	伊丹心身障害対策市民懇談会会長	1
	○ 鈴 木 嘉 藏	伊丹市自治会連合会会長	2
	照 屋 盛 徳	伊丹市民生児童委員連合会会長	1
	方 政 雄	県立高校教員	2
	宮 脇 美 智 子	伊丹市PTA連合会会計	2
	村 上 加 奈 子	公募・弁理士	1
	★ 山 本 泰 通	伊丹市保健衛生推進連合会会長	2
	吉 田 弘 志	伊丹市農業協同組合筆頭理事	1

◎：会長、○：副会長、☆：部会長、★：副部会長を示す。
所属部会の1は第1部会、2は第2部会を示す。